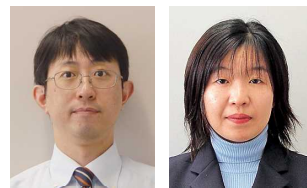


# 建築空間におけるユーザー生活行動の安全確保のための評価・対策技術に関する研究

建築研究部 基準認証システム研究室長 高見 真二  
同 構造基準研究室 研究官 小野 久美子

(キーワード) 日常災害、安全・安心、事故防止対策、ナレッジベース



## 1. 研究の背景と目的

社会の高齢化を反映し、廊下で転ぶ、階段から転落するなど、日常生活における建物内での事故が多発している。統計から推計したところ、それらによる死者数は、今後交通事故の死者数にも匹敵するほど増加していくという結果が得られている。こうした事故は、利用者の不注意で生じるケースもあるものの、建物の設計・管理側の事故発生に対する認識不足による場合もあり、事例を分析すると、利用者、設計者、管理者それぞれが事故事例を通じて危険性を把握し、一定の配慮をすれば、多くの事故を予防できた可能性がある。

そこで、本研究においては、このような建物内での、ユーザー（建物利用者）の普段の生活や行動において発生した事故事例を収集するとともに、事故の発生原因メカニズムの解明と事故防止策に関する検討を実施した。その成果をとりまとめ、「建物事故予防ナレッジベース」として、2009年（平成21年）8月中旬よりインターネット上で公開を行っている（図1）。

## 2. 「建物事故予防ナレッジベース」の概要

建物の使用時における事故予防は、想定される使用状況又は実際の使用状況に応じた、建物の各部分ごとにおけるきめ細かな対応が必要であり、一律に適用される建築基準ではカバーできないことも多い。「建物事故予防ナレッジベース」（以下、ナレッジベース）は、設計者、管理者、使用者がこれを参考として注意を払うことで、建物（敷地）内における不慮の事故を軽減することを求め

ているものである。

ナレッジベースでは、公共的な建物での事故を主に対象としており、アンケート調査や判例の検索、学校での事故に関する報告書等を通じて収集した約750件の（今後、定期的に追加予定）、事故及びヒヤリハット事例、建築物に起因する事故に関する判例等を掲載しており、事故種別や程度、事故発生場所などで検索し事例を閲覧することができる。その他にも、事故を類型化した110種類の事故パターンとそのパターン毎の対策方法や留意事項について、関連文献・資料の検索、調査報告、専門家による寄稿等も掲載し、知見や情報を幅広く提供している。さらに、建物の利用者からの事故体験情報、または事故には至らなかったヒヤリハット体験情報の投稿機能や、建築設計や建物管理の実務者からの投稿を想定した、日常事故防止対策についての設計・施工時、または管理上での工夫例などの情報の投稿機能もナレッジベースに備えており、事故予防に役立つ情報の充実を図るため、本ナレッジベースを閲覧される方々からの積極的な情報提供を期待するところである。



図1 建物事故予防ナレッジベース（トップページ）

<http://www.tatemonojikoyobo.nilim.go.jp/>